

## 令和4年度目標達成シート

【東京文化会館】

基本方針	令和4年度達成目標	成果と課題(評価指標の結果も含めた成果、分析、評価、課題、対応)																																																												
<p>東京文化会館の基本方針は、以下のとおりである。</p> <p><b>【スローガン】</b></p> <p>より多くの人々に集い親しまれる劇場へ ～「音楽・舞台芸術の殿堂」＝響きあう感動をあらゆる人々へ～</p> <p>開場以来60年間、「音楽・舞台芸術の殿堂」として多くの人々が当館を訪れ、愛され親しまれている。さらに、令和3年度からの指定管理期間では、培った制作力や国内外とのネットワークを生かした高い芸術性を担保しつつ、社会的課題にも取り組みながら、幅広く鑑賞の機会や若手の輩出、学びや体験の機会を提供し、あらゆる人々が感動を分かち合える劇場を目指す。</p> <p><b>【ステイトメント】</b></p> <p>○「音楽の入口体験から本格鑑賞・演奏への橋渡し」 高水準の舞台芸術を鑑賞されるお客様を大切にしつつ、音楽・舞台芸術の素晴らしさをより多くの方々に味わっていただく。</p> <p>○「参加交流」できる「広場」となり、「社会包摂」のための「居場所」となる 乳幼児から青少年、子育て世代、高齢者までのあらゆる世代、障害者、外国人等、様々な個性を有する方々のための拠点となる。</p> <p><b>【方針】</b></p> <p>① 「音楽・舞台芸術の殿堂」たる良質な公演の鑑賞機会を提供する。 ② 全国の文化施設をけん引する先駆的な自主事業を展開する。 ③ 建物の魅力を生かしつつ、あらゆる人々が利用しやすい施設管理、機能更新を行う。</p> <p><b>【取組】</b></p> <p>① 自主事業の積極的な展開 運動する創造発信、教育普及、人材育成の3本柱による自主事業の展開と国内外に向けた成果の還元</p> <p>② 貸館運営 戦略的な施設の貸出による世界最高水準の公演の提供、貸館公演との連携・協力による公益事業の実施</p> <p>③ 音楽資料室の運営</p> <p>④ 総合的な機能・魅力を発信する館運営 安全・安心の施設管理と舞台運営、バリアフリー・ユニバーサル化の推進、多言語化の推進、外部資金の導入、戦略的広報の取組、館の魅力強化・充実、地域連携の取組、職員の育成・スキルアップ</p> <table border="1" data-bbox="181 947 661 1178"> <thead> <tr> <th></th> <th>H31年度実績値</th> <th>R2年度実績値</th> <th>R3年度実績値</th> <th>R4年度基準値</th> <th>R4年度実績値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>稼働率:大ホール(%)</td> <td>91.9%</td> <td>45.4%(※1 92.8%)</td> <td>78.2%</td> <td>※2&lt;90%&gt;</td> <td>86.2%</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td>参考目標値</td> <td>80%</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>稼働率:小ホール(%)</td> <td>81.7%</td> <td>48.1%(※1 80.7%)</td> <td>79.40%</td> <td>※2&lt;80%&gt;</td> <td>84.9%</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td>参考目標値</td> <td>78%</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>自主事業入場者数(人)</td> <td>98,962</td> <td>35,525</td> <td>44,398</td> <td></td> <td>72,860</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td>参考目標値</td> <td>49,030</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>HPアクセス数(件)</td> <td>3,940,244</td> <td>1,771,347</td> <td>2,226,202</td> <td></td> <td>2,386,603</td> </tr> <tr> <td>音楽資料室ウェブ閲覧数(件)</td> <td>109,796</td> <td>138,420</td> <td>146,218</td> <td></td> <td>177,180</td> </tr> <tr> <td>メルマガ会員数(人)</td> <td>24,873</td> <td>25,751</td> <td>26,574</td> <td></td> <td>29,401</td> </tr> </tbody> </table> <p>※1 コロナによるキャンセルを減算した場合 ※2 R4年度基準値は、提案書の基準値</p>		H31年度実績値	R2年度実績値	R3年度実績値	R4年度基準値	R4年度実績値	稼働率:大ホール(%)	91.9%	45.4%(※1 92.8%)	78.2%	※2<90%>	86.2%				参考目標値	80%	-	稼働率:小ホール(%)	81.7%	48.1%(※1 80.7%)	79.40%	※2<80%>	84.9%				参考目標値	78%	-	自主事業入場者数(人)	98,962	35,525	44,398		72,860				参考目標値	49,030	-	HPアクセス数(件)	3,940,244	1,771,347	2,226,202		2,386,603	音楽資料室ウェブ閲覧数(件)	109,796	138,420	146,218		177,180	メルマガ会員数(人)	24,873	25,751	26,574		29,401	<p>音楽・舞台芸術の創造・発信</p> <p>1 舞台芸術の創造発信拠点として、既成の枠にとらわれず、新たな可能性を探求した作品を創造し発信する。国内外の一流の演出家や作曲家、出演者等との協働や国内外の劇場との連携を図り、質の高い創造とともに、新たな顧客の開拓、全国への幅広い成果の還元を図る。</p> <p>評価指標 オンライン・プログラム制作件数・アクセス件数 創造発信事業への初来館者数・25歳以下の割合</p> <p>2 新進音楽家等の専門人材の育成・支援</p> <p>「東京音楽コンクール」を一層充実させ、世界で活躍可能な才能を持つ新進・若手音楽家を発掘、主催事業に起用し、演奏機会を提供する等の支援を行い、芸術性・社会性を備えた芸術家へと育成していく。また、アートマネジメント人材や、教育普及プログラムを牽引するワークショップリーダーなど、制作や事業運営を支える専門人材の育成も進めていく。</p> <p>評価指標 各事業への東京音楽コンクール入賞者等の起用数</p> <p>3 次世代への音楽文化の継承と教育普及、社会包摂・社会的課題の解決に向けた取組の実施</p> <p>子供たちに音楽や舞台の喜び体験を通じ、豊かな感性を育む一助としつつ、音楽文化の次世代への継承を図る。 音楽への関心が低い層に対し、気軽に音楽・舞台芸術に触れる「入口体験」の機会を広く提供する。高齢者や障害者など、社会的に孤立しがちな人々に対し、豊かな感性やコミュニケーション、自己肯定感等を涵養し、生きる力を高める一助となるべく、手軽に音楽の楽しさを体験できる参加交流型のワークショップや、芸術家と直接触れ合うアウトリーチ活動等を積極的に実施する。</p> <p>評価指標 オンライン・プログラム制作件数・アクセス件数 シアター・デビュー・プログラムへの参加児童・学生数 障害者施設・高齢者施設の連携数</p> <p>4 質の高い鑑賞機会の提供</p> <p>国内外の最高水準の公演の誘致や自主事業の実施により、ご来場のお客様に満足していただける公演ラインナップとサービス空間を提供する。実演団体等との公演日程調整等を的確・迅速に行うことで、継続した高い稼働率を目指す。 また、施設設備のメンテナンスを万全にするとともに、感染症対策や配信を伴う公演形態への対応も含め確かな技術力とサービスで公演運営をサポートする。</p> <p>評価指標 稼働率</p> <p>5 ホスピタリティの充実と安全対策の強化</p> <p>誰にも優しく、安全安心な施設を目指し、バリアフリー化や多言語対応の取組を着実に推進していくとともに、危機管理や新型コロナウイルス感染症対策を徹底するなど、お客様への安全対策の強化を図っていく。</p> <p>評価指標 ホスピタリティ向上のための取組</p>	<p>■舞台芸術創造事業『note to a friend』、NY公演を含め予定通り実施(集客目標達成率99%)。『カストラート』、早々にチケットが完売し人気の高さを裏付け(集客目標達成率113%)。</p> <p>■①響の森、②楽落らいぶ…共に内容の満足度ではそれぞれ94%(①)、86%(②)と目標(共に80%)を上回る成果。但し、コロナの影響で、集客は目標変更を行った上で達成(110%(①)、104%(②))した。課題は高齢者層の来場率の復活。</p> <p>■①オペラボOX、②上野deクラシック…入場者数は目標値の99%(①)とほぼ達成。②は目標変更した上で90%と厳しい状況(高齢者減少)。※総じて、高齢者層がコロナ前の6割程度、その回復が課題。</p> <p>オンライン・プログラム制作件数=2件、アクセス件数=827件 創造発信事業への初来館者数=12%、25歳以下の割合=6%</p> <p>■音コン…声楽、ピアノ、金管部門を開催し、445名が応募(最終的に12名が入賞入選)。若手音楽家の発掘に貢献。2次以降は公開で約2800名の聴衆が立ち会った。また、今年度は延べ198名のコンクール入賞者を主催事業で起用することで育成型コンクールの矜持を示した。課題は、国際コンクールとしての認知度、国外参加者の回復。</p> <p>■カーサ・ダムジカの招聘が3年ぶりに実現(必然的にオンライントレーニングは減少)。ポルトガルへの研修も実行、ワークショップ・リーダーの研鑽に尽力。一部WSでは、音コン入賞者も交えたプログラムも実施し育成型に相応しい構築をした。</p> <p>■「夏休み子ども音楽会」は大ホールでオケ公演を実施、周辺施設へのバスポート参加者数も延べ3,175名に達し、コロナ禍以降、初めて復調した。</p> <p>■ワークショップ及びアウトリーチは、参加人数の調整などは発生したものの、高品質な生の音楽体験を広く提供することができた(それに伴い、オンラインは結果的に減少)。中でも一般公開するWS(国際連携企画)では、コロナ禍においても予定数は全て実現し、6,592名の参加者があった。参加者達成率が286%とコロナ前の水準に回復し、他施設との連携も10件となり(目標2件)大幅増となった。</p> <p>■コンビビアル・プロジェクトはリラックスパフォーマンスや特支学校へのアウトリーチ、高齢者施設へのアウトリーチなど対面型で実施することができた。</p> <p>オンライン・プログラム制作件数=5件、アクセス件数=1,609件 シアター・デビュー・プログラムへの参加児童・学生数=435名 障害者施設(特支等15)・高齢者施設(6施設)の連携数=23施設</p> <p>■国内アーティストの公演は安定して開催されるようになったが、海外からの大型招聘公演は新型コロナウイルス感染症だけでなく、ロシアのウクライナ侵襲などの世界情勢の影響を受け、中止せざるを得ない状況が続いた。しかし、下半期には回復し、シエではヒューストン・バレエ、モンテカルロ・バレエ団、ウクライナ国立歌劇場バレエ団などの公演が実現した。オペラでもハンガリー国立歌劇場、ウクライナ国立歌劇場などの公演により海外最高水準の舞台が披露され多くの観客を魅了した。</p> <p>■大型招聘公演中止に伴う空き日には、海外一流オペラ歌手によるコンサートの開催など、企画団体と調整を続け空き日を活用し稼働率の低迷防止に努めた。</p> <p>■感染症対策については、関係団体によるガイドラインに基づき、都度更新される情報を主催者に伝え公演実施のサポートに努めた。</p> <p>大ホール86.2% 小ホール84.9%</p> <p>■新型コロナウイルス感染症対策に関して、国・東京都の通知及び業種別ガイドラインの改定に合わせて、館のガイドラインを更新し、利用者・来館者の安全・安心を確保しつつ利便性の向上を図った。</p> <p>■会議室受付をメインエントランスの総合受付に移設し、楽屋口を利用するホール利用者との動線を分けることにより、セキュリティを強化した。</p> <p>■館内の情報基盤整備工事を実施し、大容量の配信に耐えうる通信環境を整えるとともに、利用者のネット環境の利便性を向上させた。</p> <p>■会議室エリア及び大ホール奈落の雨水導水工事を実施し、雨漏りの被害を軽減した。</p> <p>■音声認識によってテキスト化された字幕が多言語で表示されるシステムの総合受付への設置、東京文化会館コンビビアル・プロジェクトの専用メールマガジンの配信など、バリアフリー化を促進した。</p> <p>情報セキュリティに関する研修:2件 クリエイティブ・ウェルビーイング研修:1件</p>
	H31年度実績値	R2年度実績値	R3年度実績値	R4年度基準値	R4年度実績値																																																									
稼働率:大ホール(%)	91.9%	45.4%(※1 92.8%)	78.2%	※2<90%>	86.2%																																																									
			参考目標値	80%	-																																																									
稼働率:小ホール(%)	81.7%	48.1%(※1 80.7%)	79.40%	※2<80%>	84.9%																																																									
			参考目標値	78%	-																																																									
自主事業入場者数(人)	98,962	35,525	44,398		72,860																																																									
			参考目標値	49,030	-																																																									
HPアクセス数(件)	3,940,244	1,771,347	2,226,202		2,386,603																																																									
音楽資料室ウェブ閲覧数(件)	109,796	138,420	146,218		177,180																																																									
メルマガ会員数(人)	24,873	25,751	26,574		29,401																																																									
総合的な所見(自己評価の総評)																																																														
<p>■国や都の指針に従い、館のガイドラインを適宜更新し、適切な感染症対策を講じながら、安心・安全な運営を行った。新たに楽屋・会議室エリアの抗菌加工を実施した他、諸制限の緩和に伴い、バーカウンターや地下1階楽屋カフェ、クロークを段階的に再開し、withコロナ下における利用者サービスの向上に努めた。医療機関と連携して医療用抗原検査キットを導入・活用することにより、感染拡大を未然に防止し、主催事業の円滑な運営も実現した。</p> <p>■施設の定期点検を適切に実施し、施設設備の異常や老朽化による雨漏り等へ迅速に対応することで、日々の公演運営を支えた。また、館内の情報基盤整備工事を実施したことで、来年度以降、ネット環境の充実が見込まれ、利用者サービスの更なる向上が期待できる。</p> <p>■貸館公演においては、コロナ禍や社会情勢の影響を受けつつも、昨年度に比べ、海外芸術文化団体による最高水準の公演を多く招致することができた。稼働率は昨年度に引き続き回復傾向で、公演主催者と連携して実施する「上野の森ハレホリデイ」が3年ぶりに実施されるなど、コロナ前の賑わいを取り戻しつつある。</p> <p>■主催事業では、創造発信、人材育成、教育普及の3本柱を軸に幅広く展開。記者懇談会等を開催し、事業の積極的な周知も行った。小ホールを中心に企画される舞台芸術作品のうち、3作品を新制作により上演したほか、主催公演を国内各地及びNY、スラスプールで上演し、国内に留まらず国際的に展開を広げた。また、昨年度新制作により上演された『虫めづる姫君』が、YAMawardsにノミネートされるなど国際的評価を高め、全国を牽引する文化施設にふさわしい取組を実現している。ワークショップ・リーダー育成プログラムでは、3年ぶりにカーサ・ダムジカと連携し、新規リーダーの育成を再開。第20回を迎えた東京音楽コンクールとともに、若手音楽家の人材発掘・育成に寄与している。継続的に展開している教育普及事業では、都内の学校・施設など延べ100を超える会場に音楽家を派遣したほか、学校招待枠を設けた主催公演を企画する等、多角的に展開。都響提携公演で新たに東京音楽コンクール入賞者をリストとして起用するなど、全体として事業横断的な取組を実現している。</p> <p>■障害の有無、世代、国籍等の違いを問わず、あらゆる人を対象に館内外で事業を実施。英語字幕付き公演や手話・英語付ワークショップ、社会福祉施設や特別支援学校でのアウトリーチを継続的に展開。そのほか、当事者モニタリング、リラックス・パフォーマンスなどで得られた実績・検証を踏まえ、障害当事者のアクセシビリティにおける文化施設としての課題を確認した。施設設備サービスの向上や広報戦略など、財団のクリエイティブ・ウェルビーイング・トーキョー事業と連動して問題提起をしていくとともに、館内PTを立ち上げ、職員全体の意識醸成と課題解決を図っている。</p> <p>■東京都からの依頼を受け、都営住宅に受け入れているウクライナ避難民の方と、団地の既存入居者の方等との交流の場においてミュージック・ワークショップを実施。社会情勢に対応した取組として音楽の社会的価値を改めて提示する機会となった。そのほか、ワクチン接種促進キャンペーンでの事業協力や、デジタル化推進の一環で利用申請手続きにオンライン化を一部導入する等、東京都政策連携団体として政策推進に努めた。</p>																																																														
外部評価 評定結果																																																														
AAAA	<p>総合的な意見(総評)</p> <p>■ようやくコロナ前の稼働率や入場者数に近づいてきたとのこと、制作・運営に携わる関係者の苦労と尽力に心からの敬意を表したい。劇場の運営もコンサートの提供方法も、ウィズコロナの時代に即した定型に落ち着いてきたように思える。主催事業における新制作の3作品では大きな成果をあげた。これらの作品を劇場の財産として適宜ブラッシュアップを行い、再演と話題性の獲得に繋げてほしい。コロナ禍を経て高齢者の来場者減少が問題のようだが、これを機にコンサートの演目とターゲットとなる世代との紋切り型の組み合わせを一度ジャッフルしてみるのはどうか。また新進音楽家の育成では、東京音楽コンクール入賞者の人材活用が非常に良い効果を見せていることが高く評価できる。ただ入賞者の活用方法がやや画一化しているように見えるので、新たな活用方法を期待したい。また新進音楽家の育成のみならず、ワークショップリーダーの育成など、企画制作側の人材育成が充実していることは、東京文化会館が他の劇場からぬきんでている特徴だと思う。ホスピタリティの向上や社会包摂的取組については、クリエイティブ・ウェルビーイング・トーキョーとの連携、コンビビアル・プロジェクトの立ち上げにより、スタッフ全体の意識醸成や課題解決への具体的な行動に結びついてきていると思う。これだけたくさんの数の事業をこなすマンパワーとのバランスは大丈夫なのか？方向性の似た事業を合併したり、再演することでリピーターを増やすなど、人力の節約も考慮してはどうか。</p> <p>■東京文化会館の事業を分類すると、4つに類型化できると考えた。まず、オペラを中心とした国内に加えて国際の協力・展開による創造発信事業。次に、東京国際音楽コンクールの実施と受賞者が活躍する主催公演によるプロフェッショナル人材育成事業。3つ目に、アウトリーチプログラムなど多角的に展開する社会包摂事業。そしてこれまでに積み重ねてきたブランド力を活かした貸館事業。これらを軸に令和4年度も着実に事業が実施された。これらにより、「より多くの人々に集い親しまれる劇場へ」を標榜した館の姿はしっかりと示されたと考える。一方で、館のあり方を今後も継続定着するためには、施設・設備の老朽化対応は必須となるため、設置者からの理解を得て、継続していくことが望まれる。</p> <p>■コロナ禍においてはばかりでなくロシアのウクライナ侵略などの世界情勢の影響での公演中止等の調整や、感染防止の取り組みをした上での努力が目標値の変更を行った数値での集客数の達成値の高さが表していると思う。素晴らしい事だと思う。</p> <p>■公共文化芸術施設が存在意義が改めて問われる時代を迎えている。従来通りの一般的な発想は通用しなくなってゆく一方であろう。疫病がとてつもなく足を引っ張り、その次は戦争である。文化芸術にとっては大きなマイナス要因といえる。が、その間に東京オリンピックもあった。これは普通に考えてプラス要因だったであろう。これらがあいついで、ないしは折り重なってやってきていたせいで、非常時の対応でこのところはすべてが過ぎ去っていった感がある。けれどもその間に、中長期的には少子化、高齢化、貧富の差の増大、文化芸術を支える経済から社会意識までのすべてで面での決して楽観できない変動が、ゆるやかではあるが確実に進行していて、非常時が明ければ平時に戻るという具合ではなくなっている。急病に対応しているうちに病氣とは違う次元の老化や劣化が進んでいるとも言えるであろうか。戦争の見通しは難しいが、オリンピックは一昨年のこととなり、疫病も落ち着きつつあるかも観察される。とすれば、いよいよ公共がどのように文化芸術とかわかってゆくのかが、これからの時代に最善であるのか、ギリギリのところ問われる正念場であろう。そのような困難な状況の中、東京文化会館の事業の企画と運営は、言うまでもなく可能な限りで完璧かつ最適解に近く、最先端の文化創造事業、若手アーティストの発見と育成(コンクール等)、幅広い階層に芸術を届けようとする普及的・啓蒙的取組、さらに子供に文化芸術の意味を刷り込んでゆくような将来への投資がバランスよく行われており、単なる称賛をとびこえて絶賛に値する。だが、今後を考えれば、より大胆で社会を掴みとせ議論を喚起するような提案の事業も考えられねばならぬかもしれない。従来通りの価値観が次第に過去の遺物となり、たとえばクラシック音楽が大事というような論法が社会に通用しなくなってゆく傾向がますます強まると仮定すれば、大胆な提案と創造と発信によって困難を突き破る試みによって、東京文化会館のような日本の首都を代表し、しかも独自の事業の制作機能を有するホールからなされていくべきとも考える。むしろ、予算から何らかる現実を考慮すれば、言うは易し行うは難しに決まっているが、理想を追求し、価値を創造するのが、文化芸術に求められる根幹であるのだからして、そういう肝心な部分で、今後の東京文化会館に切に期待するものがある。</p> <p>A: 目標を十分に達成し、成果を上げている B: 目標を概ね達成している C: 目標を十分に達成しておらず、改善が必要である</p>																																																													

基本方針						令和4年度達成目標						成果と課題(評価指標の結果も含めた成果、分析、評価、課題、対応)					
<b>1 ミッション</b> (1)芸術文化の創造・発信の拠点 東京の音楽・舞台芸術を代表する顔として長期的な視点にたった作品創造と国内外への発信 (2)人材育成の拠点 舞台芸術の現場をささえるプロフェッショナルの育成 (3)教育普及の拠点 次代を担う子供たちへの本物の舞台芸術の伝達 (4)賑わいの拠点 芸術の香りのする、誰にとっても楽しく賑わいのある空間の創出						<b>1</b> ○音楽・舞台芸術表現の可能性を探求する劇場 国内外の良質なオーケストラ公演、質の高い演奏家によるリサイタルや、現代音楽のフェスティバルなど、未来の音楽シーンを創造する事業を開催する。 また、世界主要都市の劇場との提携、海外著名演出家との協働、来日公演や海外公演など国際的な取り組みを行う。現代日本を代表する優れた舞台作品を東京から発信する。 評価指標 音楽界・舞台芸術界での評価(公演評での高評価など)、オンライン・プログラム制作件数・アクセス件数、感染拡大防止策、ポストコロナでの創意工夫						VSシリーズが批評家と観客を満足させ、シアター・オペラ「カヴァレリア・ルスティカーナ」「道化師」は斬新な演出とトップダンサーの起用が話題を呼んだ。コロナ禍に屈せず、ラトル指揮ロンドン交響楽団、ボンクリフェスに3年ぶりに参加した海外勢、東京芸術祭では一行70名の「スカーレット・プリンセス」をルーマニアから招へい。演出家ブルカレーテ氏がそのまま日本に残って「守銭奴」を演出し、公共劇場ならではのチャレンジを評価された。他にも、NEO-SYMPHONIC JAZZ、田中浜公演、東京芸術祭「となり街の見知らぬ踊り子」も劇評を獲得。コロナによる上演中止は依然続いたが、「気づかいルーシー」は多摩公演を収録・後日配信、提携公演「岡崎藝術座」は地方公演収録映像を急遽上映するなどの工夫を行った。配信は公演・セミナー・WSなど10本、約1600ビューを得た。					
<b>3</b> ○若手アーティストや芸術の担い手を育成し、共に創造発信を行う劇場 東京芸術劇場の音楽家育成事業、演劇人育成事業の充実を図り、制作者の若手集団に発表の機会を提供する。研修コース、レクチャー、セミナー、他団体との連携を通じ、実演家、制作・舞台技術・マネジメント等の専門人材を育成し、担い手育成プロジェクトを推進する。 評価指標 芸劇eye's事業の若手劇団参加数、ボンクリ、TACT、サラダ音楽祭および自主事業全般における若手アーティスト参加数、人材育成事業からのプロフェッショナル化の人数						<b>3</b> 芸劇eyes等若手提携公演では10カンパニーが参加、TACT FESTIVALを始めとした各事業では合計100名以上の若手アーティストを起用し、発表の場を提供した。音楽家育成事業の芸劇オーケストラ・アカデミー・フォー・ウインドは依頼演奏が31回を数える活躍ぶり、また演劇人育成の東京演劇道場は100人のメンバーの半数以上がプロデューズ公演などに出演して実力を発揮しており、本年度は道場生による公演も実施した。制作者育成のアーツアカデミーは今年で10年を迎え、40人の卒業生の8割ほどが舞台に関わるプロとして活動している。											
												<b>4</b> ○初めて舞台芸術に触れる子供や大人にも親しめる作品の創造の提供 多様な舞台作品の魅力味わってもらえるよう、フェスティバルなどの多彩なプログラムを展開するほか、本物の舞台芸術に初めて触れる来館者も楽しめる工夫をする。また、劇場ツアーを定期的実施して、舞台芸術の楽しさ、奥深さを伝え、芸術文化を身近なものにする。 評価指標 ファミリー向けフェスティバルの演目数、はじめて来館した人数・満足度、子供・若者の参加率、満足度、劇場ツアー・バックステージツアー参加者数、満足度					
<b>5</b> ○誰もが芸術文化に触れ、共生社会を目指す劇場 芸術の多様性や、コミュニケーション能力の涵養に効果的であることを活かして、年齢、障害の有無、国籍等属性を問わず誰もが芸術文化に触れることで、高齢化や共生社会など東京の社会課題の解決に向けたクリエイティブ・ウェルビーイング・トーキョープロジェクトを推進していく。 評価指標 社会共生事業・福祉サービス事業・多文化共生・人材育成系事業の件数及び参加者数、満足度						<b>5</b> 社会共生プログラム参加者は202名、多文化共生リサーチ・プログラム273名、人材育成プログラム約270名。また、人材育成系の芸劇オーケストラ・アカデミー・フォー・ウインドと東京演劇道場の公演の動員数は2,655名、社会共生の「Breakthrough Journey」は1177人で、満足度は96%、東京のはら表現部の国際カンファレンス時の野外パフォーマンスも205名を集客し、話題を集めた。鑑賞サポートは18回実施し133名が参加した。いずれも満足度は非常に高く、当館の取り組みは先駆的な例として高く評価されている。											
												<b>6</b> ○誰もが自由に出入りでき、一流の文化・芸術の香りを持つ劇場 芸術愛好家を満足させる質の高い舞台芸術を提供することに加え、幅広い層に訴求するプログラムを用意する戦略的貸館と首都圏に数多く存在する実力ある劇団や楽団・制作団体との共催・提携公演を実施できる劇場にする。また、劇場内で行われている公演についてレクチャーや楽しみ方のサポート(コンシェルジュ)をする。 評価指標 稼働率及び入場者総数、共催・提携公演の本数、各種演劇賞の獲得、劇場ツアー・バックステージツアー参加者数、満足度					
<b>7</b> ○日常的に新しい発見に出逢うことができ、ワクワクする感性に働かせる劇場 劇場前広場やアトリウム、ローワ広場を活用して賑わいを創出し、将来的に地域とも連携してマルシェ(市場)の創生を目指すとともに、館の事業全体の効果的な広報展開により劇場のプレゼンスを高めていく。地元池袋西口の教育機関である立教大学や、地元自治体の豊島区との連携事業を展開し、さらに地域の取組にも協力するなど、開かれた空間を創出する。 評価指標 劇場のツイッターのフォロワー数、YouTube芸劇チャンネル登録者数、地域との連携事業数						<b>7</b> TACT FESTIVALでのローワ広場・グローバルリングでのパフォーマンスや演奏、コロナで中止となっていた大道芸の復活などで賑わいが戻ってきた。よさこい祭り・フラフェスタ・鉄道模型展・回遊美術館など地域と連携した事業を展開し、つながりを深める努力を継続している。日々の活動をSNSでこまめに発信しており、ツイッターフォロワー数はついに10万を超え、Youtubeの芸劇チャンネルは4500人の登録を得ている。本年度20回を数えた「まちがく」で、池袋の在り方を街づくりのプロフェッショナルたちと研究する試みも継続しており、豊島区の計画する西池袋の再開発の中心スポットとして機能していきたい。											
												<b>8</b> 評価指標					
※R4年度基準値は、提案書の基準値																	

総合的な所見(自己評価の総評)

上記のとおり「国際交流復活」の年となった。しかし、まだコロナの影響は大きく、中止を余儀なくされる公演も多数。さらに、物価の高騰や円安の影響にも直面し、かつ、国によるキャンセル支援の制度もなくなったために自主事業の収支は大きく悪化、収入増の取組みをするも完全に挽回することはできなかった。受託事業についても、ようやく稼働率がコロナ前に戻ったものの、電気代の高騰により大きな影響を受けた。年度末にマスクなどの緩和がはじまり、アフターコロナに向けて、来年度の準備をはじめているところである。そんな中で特筆すべき成果として、昨年度に続き、芸劇がかかわる作品が読売演劇賞の大賞・作品賞を受賞したことがあげられる。安全安心な施設運営についてもさらに注力し、防火防災訓練は実地・図上ともに2回/年実施、また、個々の安全管理意識を高め多くの職員が救命講習を受講した。また、SNSの発信など劇場のPRにも力を入れ、年度末にはツイッターのフォロワー数が10万人を超えた。これは、公共劇場の中ではトップクラスであり、芸劇の注目度が高まっているといえよう。

外部評価 評定結果		総合的な意見(総評)	
A		○東京芸術劇場では、そのミッションとして、「芸術文化の創造と発信の拠点」を掲げながら、同時に「人材育成の拠点」、「教育普及の拠点」、「賑わいの拠点」となることを明確に目指し、それらの各領域における公共的価値の創出という観点から活動が展開されている。また、劇場の基本方針や各種の重点施策においても、国際的な創造・発信の拠点であり、日本国内の全国的な劇場ネットワークの基幹劇場として、力強い取組を進めていることが確認できる。さらに、人材育成や街の賑わいづくり、社会的共生や多文化共生など、各種の社会的課題に対する先進的な試みを積極的に推進している。これらにより、新たな社会的価値の実現に取り組んでいる点が高く評価される。	
		○会館全体の設備、大ホールの音響などに関しては、一般の音楽ファンのあいだでは良心的な劇場であるとの評判がある。ただ、1階のホワイエや、コンサートホールの雰囲気の中で、何かしら殺風景で、面白み、寛ぎ感、洒落た雰囲気には乏しいという印象は拭えない。特にコンサートホールのロビーのガラス窓についての評判は、眺望が遮られるという点で、あまり芳しくない。音楽や演劇を楽しむだけでなく、開演前や終演後の時間を洒落た雰囲気の中で楽しめるという雰囲気、場所が欲しいところである。また、音楽と演劇を相互関連させた企画もご検討願いたい。	
A: 目標を十分に達成し、成果を上げている B: 目標を概ね達成している C: 目標を十分に達成しておらず、改善が必要である		○事業において国際交流復活の年となったものの、コロナだけでなく円高など物価高騰の影響を受けて収支の挽回は叶わなかった。そのような状況下にも拘らず、事業においては上質な公演企画や出演者、関係者へのきめ細かな対応、SNSの活用など様々な工夫により、批評家や観客の話題を呼び、受賞も果たした。各ホールの稼働率は目標を大幅に上回り、高い入場者数や満足度も得ている。公共施設に求められる、人材育成やインクルーシブ・多文化共生事業の実施、また、より広く関心を得る事業として実施されているバックステージツアーも好評を得ていることを評価したい。	